

1 単元名 近代化と私たち—国民国家と明治維新

2 本単元の目標

- (1) 18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。(知識及び技能)
- (2) 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 知②18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。	思①近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 思②国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	態①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は「歴史総合」の大項目B「近代化と私たち」の中項目(3)「国民国家と明治維新」を学習する。ここでは「欧米諸国のアジア進出という国際情勢の中、天皇を中心とした統一国家構想などが生まれ明治維新に至った過程や、一連の制度改革を推進した明治政府の初期の施策などから、日本で中央集権国家が形成されたこと」「日本の実情に合わせた立憲体制が国民国家の政治体制として形成されたこと、そしてこの立憲体制の成立が欧米諸国との不平等条約を改正する前提ともなったこと」などを扱う。

(2) 生徒観

本校の2年*組は、大学・短大進学を視野に入れた生徒も在籍するクラスである。

事前のアンケートによる歴史学習に対する意識調査では「大好き」が*%、「どちらかと言えば好き」が*%と比較的好意的な意見が多い一方で、「覚えなといけない単語が多いから」「人物の名前や条約の名前が沢山出てきすぎて理解が追いつかないから」のような理由で「どちらかと言えば嫌い」*%、「嫌い」*%と、歴史学習に否定的な印象をもっている生徒もいる。落ち着いた生徒が多く、ペア活動やグループ活動を設定すると積極的に話し合うことができる。一方で、自ら問いを設定し、考察することや、歴史の学習を「自分事」として捉え、主体的に追究する姿勢には課題がある。本時では、資料の読解や比較などの活動を通して、資料読解の技能を向上させるとともに、歴史の学習が現代的な諸課題と結び付いていることを意識し、「よりよい社会」の形成者としての資質を身に付けさせたい。

(3) 指導観

本時の授業では、特に政治制度に着目し、大日本帝国憲法の制定について、「憲法」というキーワードを軸に、他地域と比較しつつ考察する。この際、グループでの話し合い活動の中で「順位付け(ランキング活動)」を行うことで、根拠を基に判断し、他者と意見交換しながら自己の意見を形成していくという「よりよい社会」の形成者として必要な資質・能力の育成を図る。

5 指導計画

(1) 単元の計画(5時間)

- 第①次: 東アジアの情勢と改革 (2時間)
- 第②次: 明治初期の日本の外交と大日本帝国憲法 (2時間)
- 第③次: 単元のまとめ (1時間)

(2) 指導と評価の展開

○「学習改善につなげる評価」(指導に生かす評価場面)、◎「評定に用いる評価」(記録に残す評価場面)

次	時	ねらい・学習活動等	知識	思考	態度	評価および評価方法等
第①次	第1時	<p>【ねらい】国民国家の形成の背景や影響などに着目してアジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治变革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することで、立憲体制と国民国家の形成を理解する。</p> <p>主題 日本における立憲体制と国民国家の成立を他地域と比較しながら理解する。</p> <p>単元を貫く問い 「明治維新とは何だったのか。あなたにとって明治維新を学ぶ意味とは何だろうか。」</p> <p>主題や問いに対する見通しをもつ。</p> <p>・単元を貫く問い について、中学校までの学習や「歴史総合」のこれまでの学習などを踏まえて、どのようなことが分かると問いが明らかにできるかについて、見通し(仮説)をもつ。</p>				○ 態: 単元を貫く問い について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 【観察・ワークシート】
		<p>◎ 思①: 近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 【ワークシート】</p>				
		<p>第①次の課題</p> <p>課題 a 太平天国の乱と尊王攘夷運動の共通点に着目すると、どのような傾向を見出すことができるだろうか。</p> <p>課題 b 洋務運動と明治維新を比較すると、どのような共通点と相違点を見出すことができるだろうか。</p>				
		<p>第1時の課題</p> <p>課題 a 太平天国の乱と尊王攘夷運動の共通点に着目すると、どのような傾向を見出すことができるだろうか。</p> <p>諸資料を活用して類似と差異を考察し、表現する。</p> <p>・課題 a について、資料から情報を読み取ったりまとめたりする活動を通じて、共通点について考察し、表現する。</p> <p>第1時のまとめ</p> <p>課題 a 清と日本では、開港によって生活を圧迫された民衆の不満を背景に、旧来の秩序を批判し、新しい秩序を成立させようとする機運が高まった。</p>			○	<p>資料①: 「太平天国の呼びかけ」(『原典中国近代思想史』)</p> <p>資料②: 『時世のぼり風』の解説文(明治大学「江戸の物価と世直し騒動」展)</p> <p>資料③: 「北山安世宛吉田松陰書簡」(『新詳述 日本史史料集』)</p> <p>思: 資料をもとに、開港後の清と日本の動乱について、類似と差異を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【観察・ワークシート】</p>

	第2時	<p>第2時の課題 課題 b 洋務運動と明治維新を比較すると、どのような共通点と相違点を見出すことができるだろうか。</p> <p>知識を相互に関連付けてより深く理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題 b について、古い統治体制が残った洋務運動と明治維新を比較し、表にまとめる活動を通して、明治新政府が江戸時代の封建制や身分秩序を否定して、西欧の立憲君主制と同様の中央集権的な政治体制を目指したこと＝国民国家の形成を目指したことを理解する。 <p>第2時のまとめ 課題 b 共通点: 欧米の科学技術を導入して富国強兵を目指した改革。 相違点: 洋務運動は清朝を頂点とした儒教に基づいた政治体制をそのまま維持しようとした。 明治維新は封建制を否定して西欧の立憲君主制と同様の中央集権的な政治体制を目指した。</p>	○ ◎		<p>知: 類似した二つの事象を比較して、表にまとめることができる。</p> <p>【ワークシート】</p> <p>知②: 明治維新や大日本帝国憲法の制定などが国民国家の形成を目指したものであり、立憲体制と国民国家の形成につながっていくことを理解している。</p> <p>【ワークシート】</p>
第②次	第3時	<p>第②次の課題 課題 a 明治新政府は初期の外交で何を变えようとしたのか、何が変わったのだろうか、何が変わらなかったのだろうか。 課題 b 大日本帝国憲法の制定は、どのような意義をもっていたのだろうか。あなたにとって最も重要だと思う意義は何だろうか。</p> <p>第3時の課題 課題 a 明治新政府は初期の外交で何を变えようとしたのか、何が変わったのだろうか、何が変わらなかったのだろうか。</p> <p>諸事象の推移に関わる視点から考察し、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに明治政府の初期外交と国境の画定について、「変化と継続」という視点から考察し、表現する。 朝貢・冊封が前提の東アジア国際秩序が独立国相互の条約に基づく関係へと転換した一方、欧米との不平等な関係は継続したことを理解する。 <p>第3時のまとめ 課題 a 何を变えようとしたのか＝朝貢・冊封が前提の東アジア国際秩序不平等条約に基づく欧米諸国との関係 何が変わったのだろうか＝独立国相互の条約に基づく外交へ 清:日清修好条規(対等条約)/朝鮮:日朝修好条規(不平等条約) 厳密な国境の画定(琉球→沖縄、樺太＝ロシア・千島＝日本) 何が変わらなかったのだろうか＝欧米と結んだ不平等条約</p>	○ ○		<p>思: 資料をもとに、初期外交と国境の画定について、「変化と継続」の視点から考察し、表現することができる。</p> <p>【観察・ワークシート】</p> <p>知: 東アジア国際秩序が変化した一方、欧米との不平等な関係が継続したことを理解している。</p> <p>【観察・ワークシート】</p> <p>資料①: 「国書御委任状」(国立公文書館デジタルアーカイブ) 資料②: 「日朝修好条規」関係年表と内容の要約など関連資料 資料③: 1854年の日露和親条約の国境線と1875年の樺太・千島交換条約の国境線を示した地図</p>

<p>第4時(本時)</p>	<p>目標：大日本帝国憲法の制定の意義を、アジア諸国とその他の国や地域の動向と比較しつつ、多面的に理解する。</p> <p>1 既習事項を振り返る。 不平等条約の改正に失敗していることを確認する。</p> <p>2 学習課題を解決する方向性について見通しを持つ。</p> <p>第4時の課題 課題 b 大日本帝国憲法の制定は、どのような意義をもっていたのだろうか。あなたにとって最も重要だと思う意義は何だろうか。</p> <p>予想(仮説)を記入することで、学習に見通しを持つ。</p> <p>3 大日本帝国憲法の制定の意義を考察する。 (全体・個人) 資料を活用し、憲法制定の意味を考察する。</p> <p>4 協働を通じ、自己の考えを広げ深める。(グループ) (1)複数ある憲法制定の意義についてグループで話し合い、順位づけを行う。 (2)なぜ、その順位にしたのか理由について話し合う。</p> <p>5 話し合いの結果を全体で共有する。(全体) グループごとの意見の相違を確認しながら本時の課題の多面的・多角的な解釈に迫る。</p> <p>6 学習課題に対する自己の理解を表現する。 グループでの話し合いや全体での共有を経てまとまった自己の意見をワークシートに記入する。</p> <p>第4時のまとめ 課題 b 西欧の立憲君主制と同様の中央集権的な政治体制の確立、立憲体制の成立が欧米諸国との不平等条約を改正する前提となったなどの複数の意義から、自分が最も重視する意義についてまとめる。</p> <p>7 現代とのつながりを意識して学習する。 立憲体制が現在の日本でも継続していることに触れ、相違点は何か、問いを發して次時の学習へ接続する。</p>		<p>◎</p> <p>○</p>	<p>・ペアによる言語活動を取り入れて、前時の内容の復習を促す。</p> <p>・事前アンケートで調査した生徒の「憲法」に対するイメージなどを紹介しつつ、「自分事」として学習に取り組めるように工夫する。</p> <p>・資料提示にはICT機器を活用する。</p> <p>思②：資料をもとに、他地域と比較したり、相互に関連付けたりするなどして大日本帝国憲法の制定の意義の多面的・多角的な考察を行うことができる。【観察・ワークシート】</p> <p>・話し合いがうまくいかない班には、机間指導でサポートを行う。</p> <p>・マナボードなどの教具を活用することで、迅速な意見共有を図る。</p> <p>態：大日本帝国憲法制定の意義について、自己の意見を持ち、主体的に追究しようとしている。【ワークシート】</p> <p>資料①：ロリマー『国際法綱要』関連資料および岩倉使節団『事由書』 資料②：「ミドハト憲法」「明治憲法」の比較資料および民権派の憲法に関する評論 資料③：「憲法発布祝ひ祭之図」とカール・ラートゲン書簡</p>
<p>第③次</p>	<p>第5時</p> <p>単元のまとめ 単元を貫く問い 「明治維新とは何だったのか。あなたにとって明治維新を学ぶ意味とは何だろうか。」</p> <p>学んだ内容と現代とのつながりを意識して考察する。</p> <p>・現代では当たり前になっているが、明治時代に始まったもの(太陽暦・学校教育・洋服など)をできるだけ多く挙げる。</p> <p>・「国民国家」「立憲主義」などのキーワードを用いて、単元を貫く問いの答えをまとめる。</p> <p>・グループワークなどを利用して、自己の答えを相互に発表し、他者の考えを知ることで自己の考えを深める。</p> <p>自己の学習活動を振り返り、次の学習につなげる。</p> <p>・単元を貫く問いについて、「単元の導入」の答えと「まとめ」の答えを比較して、何を学んだのかを自分自身で振り返る。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>	<p>知①：資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。【ワークシート】</p> <p>◎ 態①：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。【ワークシート】</p>	